これまでのあらすじ

Dreamland での調べ物はすべて終わった。あとは川下りをして Inner Sea の Cassomir に向かうだけだ！

39 日目：お宝を逃す冒険者 (Part1)

川下り第 1 の補給拠点である Xer までは何事もなく進む。夢の中で貰った能力値 +2 のマニュアルも問題なく読める。

そして、Xer に到着。買い物リミット 7000GP のそこそこ大きな街だが、「物騒な奴がたむろしてるので手早く出港したい」「Skywin のみで買い出しに行く」といった事情により、実質 3500GP 制限・10 枠までというかなり制限がかかった。アイテム製作素材、ダイヤをはじめとしたマテコンの補給にとどめ、計画どおりに 1 時間で再出港。

しかし出港した矢先、後ろから巨大なガレー船が追いかけてくる！　船には Razmiran の旗が。だがこちらには水上戦最強呪文の Control Water があるので、とくに戦闘もなく逃げ延びる。
知恵者 Lyushin 曰く、これは Faith Barge というお布施を要求してくる船らしいが、通行料をせびる山賊と変わらないよね。しかしこれで、本セッションにて用意されていたお宝ドロップの一部を逃してしまうことになる。

49 日目：Hansper Cult の村

カラス湖と呼ばれる湖までは、何事もなく進む。

そして明け方、Lyushin と Mklwh だけが起きている状況。湖に差し掛かったころ、我々の船に小さな漁船が近づいてくるのを見つける。船には妙な仮面を被った者たちが 5 人……めっちゃ怪しい。
Mklwh はコウモリで飛び、漁船に停泊を命じるが、不審者はそんな Mklwh に問答無用で Flame Strike を 5 発撃ってくる！　セーヴの出目が悪く、Mklwh は文字通りの消し炭と化す。サッと避けて無事だったコウモリは使い魔で Int があるので、死体を背負って船に戻ってくる。

爆音で起きた Mayu が根性で不審者達のイニシアチヴを越え、Youl も Mee の後押しを受けて高いイニシアチヴを得たため、Breath Of Life により蘇生を果たす。不審者達は続けざまに Mklwh に Call Lightning を連発するが、さすがに Flame Strike ほどのダメージは出ない。

Mee と Axe が Dimension Door で敵船に吶喊し、Lyushin は船の上に Acid Pit を掘って 3 人を落とす。不審者（ドルイド）は鳥に変身して船上まで戻ろうとするが、戦線復帰した Mklwh の Web に蓋をされてしまう。
Axe のダメージが振るい、5 人とも撃退。Cloak of Resistance +1 を 5 枚落としたため、ようやく PT 全体にクロレジが行き渡る。

いったいこいつらは何者なのか？　と訝しむ一行に Skywin は言う。「補給のため Riverton という村に寄りたい」。
Riverton は 500 人くらいの小さな村だが、Hansper の信者が結構いるらしい。そして先程の 5 人の不審者も Hansper のカルティストなのだ。
俗世に詳しい Youl は知っている。Riverton は River Prophet の Naerel Twice-Born を長としている。その長も Hansper の信者のようだが、さっきのような過激派ではない……かもしれない。

Skywin 曰く、「Hansper は客を迎えると夜に祝宴をやるが、かなりカルトでケオティックなアレなので避けたい。あとさっきの 5 人を倒したことが過激派に伝わるのも怖い。揉め事起こさないでね」とのこと。

さて、実際に Riverton に接岸してみると、住民はコソコソとしつつこちらの方を陰口している様子。そこに高い声が響く。「Water Rat が遣わしたのだ！ Hansper の知恵により、夢や赤い帆や恐るべきピッチフォークについて話し合うのだ！（この辺うろ覚え）」などと。
River Prophet である Naerel の声だ。そして Skywin 一行に、小屋の中に来るように誘ってくる。

Naerel「ようこそおいでくださいました」

小屋の中に入った Naerel の態度は先程とは一転、とても理性的である。
意外とコミュれるな？と思った Lyushin は Diplomacy チェックを通し、この村長はカルトの長としてあえてファナティックに振る舞うことがあるようだということを察した。

Naerel「かなり前、夢の中に赤い船が現れた。ほどなくして（2 週間前）現実にも赤い船が現れた。分厚い服を着た三角帽の男が乗っていて、不気味だった。彼らはあなた方が来るのを予見していて、このルビーを手渡してきたのだ。このルビーは不吉なものなので君たちが持っていってくれ」

とても立派で大きなルビーを差し出してくる。Lyushin は Appraise するが、1 万 GP くらいになりそうで魔法のオーラは感じられない。
頭のいいヤツらは思い出す。Thrushmoor、Iris-Hill の地下にいた奴隷商人が似たようなルビーを持っていた気がする。レンの住人がこういうのを持っているようだ。赤い船も Tricorne の海賊船 Bloodwind のことか？
敵である人物が間接的に渡してきたアイテムであり、怪しい。いろいろとリスクはありそうだけど、もらわないとそれはそれでこの場が面倒になるので貰っちゃう。

早々に積み込みが終わったので、船に戻ろうとする。
すると陸地の方から奇妙な鳴き声が。羽根の生えた、猿ともコウモリともつかぬ化け物が 2 体襲いかかってくる。Ahool とかいう魔法生物のようだ。
Lyushin がさっそく Bite を食らって Grab されてしまうが、FoM と Mklwh の Dimension Door を伴う攻撃で救われる。同じく噛まれた Axe は乱舞攻撃を食らってかなり削れるも、大事には至らず 2 匹ともやっつける。
村人は「奴らが不吉を運んできた」、村長は「不吉の象徴よ去れ！！」と叫んでくるので逃げるように船に乗り離脱。
（あとで DM が言うには、ルビーが Ahool 襲撃のトリガーになっていたとのこと）

52 日目：アカい国

カラス湖を抜け、Galt と Kyonin の境にあたる川を下っていく。
Skywin いわく、Galt は政情不安定。だが補給はこまめに行いたいので、Galt 側の Dabril という村に寄ることになる。園芸の村で、治安は比較的安定してる気がする……らしい。

さて、Dabril に到着。

Galt には秘密警察めいた連中が跋扈しているようで、身元不明の人物がいると不安がられるため、Skywin だけが上陸して PT は船でお留守番。
すると船で待機する PT に、覆面の女性と護衛複数が近寄ってくる。

Glower「反革命取り締まりの者だ！」

これが噂の秘密警察、Gray Gardener と呼ばれる連中のようだ。覆面の女は Glower。
商船で旅をする者であると正直に身を証すと、Glower は「Emilio Daldamane という男を探している」と言う。
Youl は噂を聞いたことがある。Galt の首都 Isarn の上級議員だ。しかしそのことを口走ると「どこでそれを知った？」などと口やかましく問い詰められてしまい、ごまかすハメに。

Glower「Daldamane は指名手配中だ。匿うと赦さないよ。船を臨検させてもらう」

Mayu「船長不在の間にそういうのは…」

Glower「じゃあ待たせてもらおう」

Skywin の帰船を待つ間、Lyushin は革命的な芸術について世間話をする。
やがて Skywin が村の顔役を連れて戻ってくるが、顔役は Glower を見て顔を引きつらせる。
その後臨検が始まるが、とくに問題なく終わる。
「迷惑かけたね」という Skywin の謝罪もそこそこに、最終的には何事もなく出港となる。

60 日目：お宝を逃す冒険者 (Part2)

もう少しで Taldor に差し掛かる場所。
川岸で 3 人の男が手を振って「どうかおたすけー」と叫んでいるのが見える。Axe の目で見ても Evil ではないし、元は高級そうな服もボロボロに擦り切れて、切実そうだ。

Axe「どうしたんだー」

男たち「主人が怪我をしてしまった。どうか Taldor まで連れてってくれ」

船の主 Skywin に聞いても、水の上では助け合いの精神が大事だと語るので、助ける方針となって全員で上陸する。
川岸のすぐ近くにある小屋に入ると、脚を怪我して辛そうな表情の男が横たわっていた。Axe が Cure すると、この男は Emilio と名乗る……そう、さっき話題に上がった上級議員だ。
名乗りを聞いた瞬間 Lyushin は Mirage Arcana を行使して小屋自体をただの丘陵に偽装する。なんという機転！
Axe の Detect、Youl の Blood Biography で裏をとっても身元はすべて真実で信用できそう。

Emilio「反革命のそしりで訴追されたのは確かだ。だが、Galt の反革命判断は恣意的で、事実上の無政府状態、私は巻き込まれただけだ」

Axe「何をしたの？」

Emilio「気に食わないと思われればなんだってこじつけられる。だが革命連中は命をないがしろにしていて許せない」

どういう理由で Taldor に向かっていたか聞くと、どうやら匿名の手紙を受け取ったらしく、国境の森までくれば以降の亡命を手助けするという連絡があったらしい。
それはそれで怪しいが、藁をも掴む気持ちも分からなくはない。とりあえずその方針に乗ってみることに。Emilio は必ずあとでお礼をすると誓ってくれる。
Lyushin の Seeming で Emilio 達を変装させたのち、船へと運ぼうとする……が、Axe が船長に話をつけるべく先行すると、はるか向こうに Glower の一団の姿が。地図と風景を見比べ、違和感に気づき始めているようだ。
小屋に戻り、Dimension Door で船に戻ると、Skywin は Emilio の亡命を快諾し、全速で離脱。

しばらく進むと、船員たちが騒ぎ出す。Glower が飛んで追いすがってる！　しかし Potion による飛行だったので、Dispel1 発でポトリ。
ドロップ品は手に入らなかったが、まぁ怪我人や人死にが出るよりはマシですね。

亡命補助の手紙をくれたのは Stardust Augers。Lyushin はこの名前だけで Desnaっぽいと察し、Axe の知識が裏を取る。

62 日目：Nestor 再び

以降は秘密警察の追撃もなく、刻々と Taldor に近づく。
この日の夕方ごろに、川岸の森の上で何かがチカチカと光る。Stardust Augers の合図だ。
接岸して光の元へ向かうと、焚き火のそばに白いフードを被り Desna の聖印を持つ一団が。

Auger「ようこそ、Emilio。そして夢の旅人一団」

我々のことは Nestor という者から聞いたらしく、奥のテントには実際に Nestor がいる。そう、樹上の夢の世界で出会ったソーサラーだ。

Nestor「よかった、また会えたね！　君たちにお礼をしなきゃいけないと思ってたんだ」

Ring of Protection +2 と Wand of Break Enchantment 34chg を貰える。5th のワンドなんて普通ありえないアイテムだが、逆に言えば今後これが必要になるほどの障害がお目見えするということだろうか…？

Auger「Emilio を Cassomir まで案内します。去る前に、夢の世界の話を聞かせてください！」

せっかくなので、津波を起こす大邪神の話とか、蜘蛛をパートナーとする貴族の話とかを語り聞かせる PT。

Emilio「ここまで本当にありがとう。この印章指輪を渡しておくよ。あとでお礼をするときに引き換えよう」

Emilio は Auger、Nestor 達と去っていった。

70 日目：お宝ざくざく！！そして…

とうとう船旅の最終目的地・Cassomir に到着である。
遠目にもわかる巨大な港、無数の船。造船業の都市らしく作りかけの船も多い。三角州の沼地を埋め立てたため、そこが自然のドックとなっているのだ。

Skywin は港の者に入港料を払おうとするが、どうも様子がおかしい。なんとすでに入港料が払われてるそうだ。Emilio さんが払ったのか、と Mayu は推測するが、実際はもっとすごい状況だった。

そこに Abadar の聖印を下げたローブの男が現れ、Skywin 御一行様を Abadar 神殿に招いてくる。

Abadar 神殿にて、神官から一行宛にお手紙を渡される。封蝋のシグネチャは Emilio のものだ。お礼状である。向こう 5 年分の Skywin の船の入港料が保証されてる旨、これを持って Abadar の寺院に来ると 16000GP くれる約束が書いてある。Skywin は狂喜乱舞し、しばらく Cassomir を拠点に商売をする算段を立ててる様子。なお、Emilio はすでに Oppara へと向かっているようだ。

ここで Skywin と共有をはかるべく目的の再確認。第 10 回・第 11 回ログにも情報があるので適宜見よう！

- ロールズを追ってきた
- Katheer という街に Mysterium があり、そこにネクロノミコンがある。ロールズはこれを用いて失われし神を復活させようとしている
- Cassomir にいるはずの Miacknian Mun という人物が Necril で書かれたネクロノミコンの解読を行うことができる。Thrushmoor に睡眠薬を送っていたのもコイツ

Lyushin は 1 つの論文を持ってることを思い出す。「Katheer の〇〇に捧ぐ」と書かれている……ともかく、次の目的地は Katheer になりそうだが、Mun という人物についても調べる価値はありそうなので、しばらく Cassomir で行動する流れに。

ここまで溜め込んだアイテムを一気に放出、PT 資金が 43498GP まで膨らむ。うち 10000 でダイヤモンドを買い溜める。

71 日目：久々のシティーアドベンチャー

Mun の居所をつかむべく、午前と午後にわけての情報収集タイム。

Lyushin は Mun の論文があるかどうか調べるべく図書館へ。調査の末、1 つ見つけた。錬金術を使って船を強化する方法についての論文。それを見た感じ、Mun は在野の研究者だが、論文はここ数年のもので、生きていると思われる。査読者として造船ギルドが関わってると考えられる。

Axe は再び Abadar 神殿へ。経済活動のログを探るが、Mun の手がかりなし。顔の広い人へのつなぎはつけてくれそうだが、話を進めると Skywin と話することになりそう。

Mayu は Mun が提供していた Sleeping Drug について医療関係者にインタビュー。しかし訝しまれる……まぁいきなり部外者が睡眠薬の話してきたら引くよね。

Mklwh と Youl はロールズについて港で情報収集。だがさすがに手当たり次第に聞いても何もなし。

ランチで情報共有を図ったのち、午後の情報収集タイム。

Mayu と Youl は錬金術師にインタビューして知り合いがいないかチェック。
ポーションを売る店から卸元を知り、たどる。Diplomacy を通すと、「錬金術師はかなり秘密主義なので同業者や卸方法も秘密のことが多いよ」と教わる。しかし「Mun は錬金術師の秘密クラブ《The Esoteric Knights of Evolvement》に出入りしてると聞いたことがある。議員など上位層も出入りしてるそうな」という情報も得る。

Lyushin は造船ギルドへ。論文をフックに Mun 先生にコンタクトをはかるも、即時のコンタクトは難しそうだ。いろいろ話をすると、Mun 先生は論文を定期的に出す者ではないようだ。論文 1 つだけでそれが高度な内容なのはかなり怪しい。

Axe は Skywin に Mun について聞く。「ここで一番人の流れに詳しいのは Harbor Master だろう。紹介するよ」とのこと。会うと、Master はいろいろ答えてくれるが、核心には迫れない。
「Mun？聞いたことはない。ほかに知りたいことがあれば聞きにおいで」
「ロールズ？赤い船？見たような気がするけど覚えてない」
「船の錬金術的強化？まだ実践に移せてない。技術屋に聞いてみるといいんじゃないかな」

Axe は、薬の輸出について聞いてないか・どういうコネをたどればいいか聞くが、後ろ暗い奴らは口も硬いだろうから難しいだろう、と諭される。

現時点で一番明確な情報は、秘密クラブだろう。

72 日目：縁は網のごとく

Divination。Mun に接触するアドバイスを乞うと、「情報収集をせよ、次いで人の縁をたどれ」とのこと。

情報収集午前の部。

Lyushin と Mee は魔術師ギルドへ。Mun について聞くためのコネが欲しいというと、「そんな人は知らないな〜」と言う。まぁ魔術師も錬金術師も秘密主義を徹底するのは自然なことである。
Mee が袖の下を渡すも、調べるには時間かかると言う。
「上流階級に顔効く人いる？」と聞くと、とある Lv8Wiz を紹介された。

ほか 4 人は Harbor Master を再び訪れた。秘密クラブについて率直に聞くと、そのクラブは「知識で世の中をよくしようという意識高いクラブである」「Sceptered House という場所でゼミをやってる様子。一見さんお断りなので紹介は必須」と教わったうえで、クラブ会員の一人の名を聞き出せる。Ethem Baler、Gnome で Cassomir 造船所の主任技師のようだ。

午後の部は、Abadar 神殿に主任技師へのコンタクトを取り次ぐ。100gp の寄進により、明日のランチタイムをセッティングしてもらえた。主任技師は技術タイプの人なので、マナーよりは知識の勝負になりそうだ。それを知った Lyushin は一夜漬けで造船のトレンドを学び、意識を高める。

73 日目：いきなり早口になる奴って

昼、ランチタイム。造船所主任技師との会食だ。
約束の料亭にて待つと、すごい眉毛の Gnome が現れる。Ethem は Bleached Gnome という真っ白なはぐれ Gnome。恐ろしく小さな声で「コンニチワ」と挨拶し、その後は無言で食事を始める。とんでもないコミュ障だ！

しかし。Lyushin が一夜漬け知識でアイスブレイクを試み、船の話題を口にした瞬間、いきなり早口になる。どうやら Skywin の船の造船にも関わっていたようだが、それ以外の内容は素人にはチンプンカンプン。
早口に自然な感じで相槌を打つため知識ロールを強いられるが、Lyushin の出目が振るわず 4 回もリロールするハメに。最終的にみんなの迫真の相槌でサポートされて 20 を振って、会食は無事いい感じに。こなれたところで Mun について聞くと。

Ethem「彼はなかなか見どころがある男。Taldor 生まれではないがこの国に貢献している。この国に来たのも結構前で、今はここに住んでる。街の南部の埋立地、かつて診療所だった家に住んでいるよ」

Ethem「彼には共同研究者もいたようだ。奇妙な外見だったけど仲はよさそうだった。日の当たる場所には来ず、目深にフードを被り、おててが 4 本…」

Ethem「研究をお金に変えてる様子はない。パトロンでもいるのかな？」

そして Mun の家への行き方を教わった。
しかし、行ったらきっとご友人との戦闘になるだろう。

（いやー長いログだった）

リマインダ：

- 経験点は 16000
- 次回までに Cassomir でのお買い物を決めとこう！
- これ以降も日数はカウントを進めるべきだ。ロールズは着々と『準備』を進めてるのだから……